

釧路湿原の花

中央小学校 五年一組 久保優花

なぜそれを選んだか?
 釧路各湿原に行ったら、花がいっぱいあり、釧路湿原には、どんな花があるのか、何色があるのかを知りたいから!

仮説
 色は、ピンク、むらさき、黄色、糸状があるかと思いました。あと、100種類以上あるかと思いました。

解決したい問題
 植物は、何種類あるのか?
 どんな植物があるのか?

方法
 コンピューターやパソコンで資料を調べた。

今回は、あまりでてこない、
 釧路湿原の植物の779
 他のも

2位

3位

1位

写真

パイネソウ

釧路湿原公立公園

【参考文献】 釧路湿原花暦

釧路ネイチャーセンター
 北海道川上郡標茶町釧路北七線 86-1
 〒088-2264

分かった事!

わたしは、ベスト3を決めました。他にもいろいろな花があれはありますが、その中でも、すっごくすてきな花があって、めずらしい物を選びました。

まず第3位は、パイネソウという花で、咲く日は6~8月にかけて咲くので、夏に咲きます。

糸状で大きな葉、はをひく。

第2位は、カキツバタという花で、6~7月に咲きます。色は、青むらさき色です。すごく、きれいな色です。

第1位は、ツルクケモモです。下を向いて、咲く花です。すごくかわいいです。これで、ベスト3は決まりました。予想のいろいろな色は、あるのかと、100種類以上あるのかと、いろいろな色もあるし、100種類以上あるかと思いました。

総論
 これらのことからは、釧路湿原には、花がいっぱいあり、自然豊かだとわかりました。
 種類もたくさんあり、いろいろな花の種類があることがわかりました。
 釧路湿原のことがよくわかりました。

なぜ

釧路湿原の地形を調べました。

釧路各湿原に行ったら、
 水が多すぎて、量がさになったから。

仮説
 2年間の降雨の水量

解決
 水の量を調べただけで、
 かわりませんでした。

方法
 パソコンで調べました。

水の量から地形について調べたのは、
 釧路湿原水といふと、地形のことか、
 調べて、釧路湿原の地形がどうなっているの
 と思ったからです!

約2万年前



1万~6千年前



6千~4千年前



3千年前



くわかったこと
 1万~6千年前
 陸地に海水が入り
 現在の湿原になったことが
 わかった。


総論

標茶町立標茶小学校 5 年生がとりまとめた発表内容

(テーマ)

ザリガニ

について




研究背景

湿原にいてザリガニは、どんなところをこのものが調べてみたくなったから

仮説

ザリガニはきたないところをこのむだろう。



方法

ザリガニをきれいなたんこをたけいこにいて数日、けんさつする。

予想

- きたないところが増える。
- きれいなところが増える。

飼育するための必要な物

- 水そう
- 空気をあてる装置
- 木の葉
- 石
- 木のぼり
- 2日以上おいた水

わかったこと1

- ザリガニは、下流にいない。(ニニ湿原から)
- でも上流にいます。

わかったこと2

- ニニ湿原から日本ザリガニを見つけた。
- 4へちまを見つけた。
- 川の底の腐敗物から

実馬舎

ザリガニをきたないところに入れてみる。

1日観察する

2日観察する

3日観察する

4日観察する

5日観察する

6日観察する

7日観察する

8日観察する

9日観察する

10日観察する

11日観察する

12日観察する

13日観察する

14日観察する

15日観察する

16日観察する

17日観察する

18日観察する

19日観察する

20日観察する

21日観察する

22日観察する

23日観察する

24日観察する

25日観察する

26日観察する

27日観察する

28日観察する

29日観察する

30日観察する

31日観察する

32日観察する

33日観察する

34日観察する

35日観察する

36日観察する

37日観察する

38日観察する

39日観察する

40日観察する

41日観察する

42日観察する

43日観察する

44日観察する

45日観察する

46日観察する

47日観察する

48日観察する

49日観察する

50日観察する

51日観察する

52日観察する

53日観察する

54日観察する

55日観察する

56日観察する

57日観察する

58日観察する

59日観察する

60日観察する

61日観察する

62日観察する

63日観察する

64日観察する

65日観察する

66日観察する

67日観察する

68日観察する

69日観察する

70日観察する

71日観察する

72日観察する

73日観察する

74日観察する

75日観察する

76日観察する

77日観察する

78日観察する

79日観察する

80日観察する

81日観察する

82日観察する

83日観察する

84日観察する

85日観察する

86日観察する

87日観察する

88日観察する

89日観察する

90日観察する

91日観察する

92日観察する

93日観察する

94日観察する

95日観察する

96日観察する

97日観察する

98日観察する

99日観察する

100日観察する

感想

ザリガニについて調べて、ザリガニのすくむところは、水、必要な物などについてわかった。

自然の大きな力を感じることができた。


2週間以上生きていてすごいと思った。

観察期間中はザリガニが水をきれいにしていたので、水をきれいに保つておくことが大切だと思った。

見つけたザリガニは、すごいなと思った。

見つけてうれしかった。

生息地



(テーマ)

小川にすんでい

魚

研究背景

湿原にはどんな魚がいて、その魚はどんなくらしをしているのか... と思ったから。

仮説

魚によって、される生活しているものと、くらしをしているものでわがれているだろう

方法

標茶高校の湿原に打ち魚がもたていかけてあるので調べてみる。本で調べる。

予想

魚のくらしが小川で変わると思う

結果

ニニ湿原には魚がいなかった。

考察 (あがたこと)

10月 標茶高校の湿原に行くとさきほかに魚がいたことがわかった。魚のくらしのヨコエなどはいくらもなかった。理由がわからなかった。標茶高校に行くと、たいていさきほかに魚はあちからあちからいたことがわかった。

感想

標茶の人に聞いた。さきほかに魚を放してないから魚はいない。と言っていた。

感想

標茶に魚がいなかったのがショックだった

感想

湿原にすんでい魚がいることがわかった。遠古武の湿原にすんでい魚は標茶高校から標茶高校へ来たことがわかった。その本にも書いてあったからわかった。たいてい湿原に行くと見つけたと思う。

アメマス (サケ科)

9月の後半から11月の前半くらいに産卵する。

体長は40~70cm

カラフトマス (サケ科)

4月~5月くらいに産卵する。

体長は55cm~75cmくらい

ワカサギ (モウリウ科)

3月~5月にかけて産卵する。ため、冬季でも湖を回遊している。餌はプランクトン、藻類に食べる。大きさは7.8cmくらい、1匹の魚は12.5cmくらい、この魚も食べる。

イバラトミヨ (トゲウオ科)

湿原の草むらに産卵する。トゲウオの産卵がわかる。川原の湿原にはトミヨが4種類いる。イバラトミヨの背中にはトミヨが20ほどいる。ヨコエビやミミズの幼虫などを食べる。体長は5~8cm

イトウ (サケ科)

昭和30年代代表言わされた。魚の産卵。かつてミラル川沿いに2mに産卵場があった。平均では15m。4月~5月に産卵する。餌は藻類を食べる。へびも食べる。

ニシマス (サケ科)

3月~7月に産卵する。4月間という長い産卵期間。体長は40cm前後

参考文献

川原の湿原を知ろう
生物のくらし
川原の湿原を知ろう

タイトル
ひせいぶつの温度について

研究背景理由
れいと食品をえらんでいたひせいぶつはマイナス何度プラス何度まで生きられるのが気になったから

仮説
ひせいぶつはマイナス何度まで生きられてプラス何度まで生きられるのたさうが

方法
しつげんから取ってきた水を半分こあらせてもう半分をらうとうせせてけんひ鐘でかんざつする

予想
こあらせる方は生きていると思う。らうとうさせる方は死んでいると思う。

結果(こあらせる)
ひせいぶつらしきものはいたが動いていなかた。たが死んでいると思う。

結果(らうとうさせる)
アモドロなどのひせいぶつがバラバラになったが死んでいると思ふ。

考察(わがたこと)
ひせいぶつはこあらせてると死ぬ。らうとうさせるとバラバラになつて死ぬ。
マイナス40度プラス100度で死んだ。

感想
ひせいぶつのはあまりくわしくなかつたけど、こんがいていもひせいぶつのはを学んだ

ちっぽり まめちしき
豆矢口言蔵
世界最小のひせいぶつは「アワセモ」
世界最大のひせいぶつは「オオムギ」

ヤチボウスの成長条件とは?

研究背景
釧路湿原のヤチボウスを見て、ヤチボウスが生育しているところと生育していないところのちがいが気になった。

仮説
ヤチボウスは虫のすみかなので虫が住みやすい環境になつていると思ふ。
条件1 土がたくさんある
条件2 水がたくさんある
条件3 日光があたる。

予想
たくさんの土が必要
たくさんの水が必要
日光があたる所にある

方法
高校のミニ湿原に行つて、土まわりの環境を調べる。

低層湿原とは
ヤチボウスの生息しやすい、低層湿原は、湖沼(こしや)や河川(かへん)の水たまり、地下水の浅い土地に発達する湿原です。

ヤチボウスの生息地土壌

実験
ミニ湿原のヤチボウスの生育していたところの土と、ちがうところの土の中の水分の量を調べる。
実験方法
土の重さを同じ量にしてかわかし、減少量で水分の量を調べる。

結果
ヤチボウスの生育していた土の5分の1が水た。たさから水はたくさんではなく、土が8水が2くらいの比率がふさわしいのが分かつた。大きなヤチボウスがあつた所には日光がほとんどあつた。たくさんの土があつた。

結果
土はたくさんあつた。水も土の中のちがうところ、日光もたくさんあつた。たさから水はたくさんあつた。たさから水はたくさんあつた。たさから水はたくさんあつた。たさから水はたくさんあつた。

考察
ヤチボウスの生育していた土の5分の1が水た。たさから土が8水が2くらいの比率がふさわしいのがわかつた。
日光は直射日光ではなく、木にははまされたりして、ほとんどあつた。

感想
ヤチボウスは他の植物とちがひ、水を多くあつた土のところに多く生育していた。
ヤチボウスは、虫のすみかになつていることがわかつた。

文ITN
<https://kotohank.jp/word/E4%BD%8E%E5%B1%A4%E6%89%BF%E5%8E%9F-574484>
<http://hoshu.ces.hokudai.ac.jp/~tsuyumi/loplast/wetland-j.htm>
<http://pecodrive.net/?p=3509>